

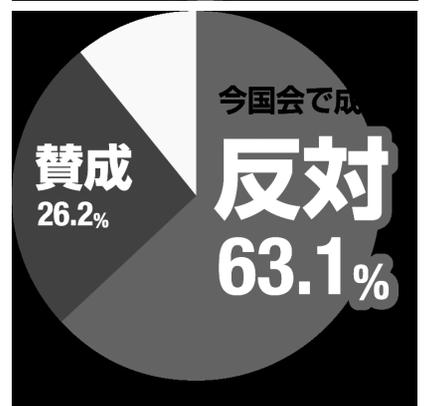
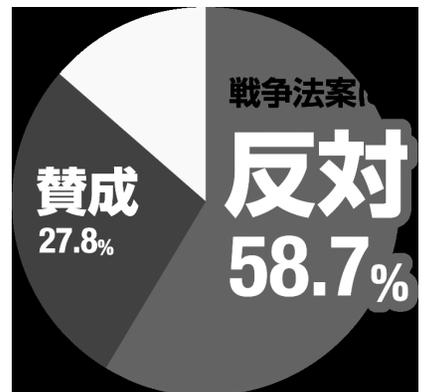
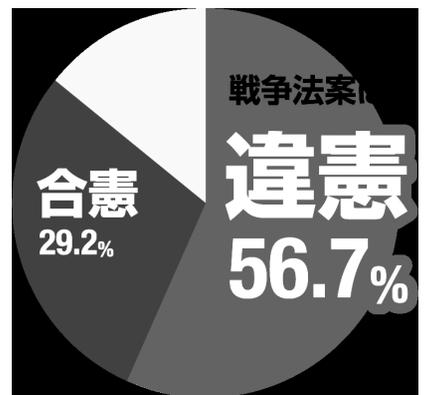
民意無視の強行採決を糾弾します

戦争法案

安倍政権は15日、衆院安保特別委員会で「戦争法案」の採決を強行しました。日本を戦争する国にするな——どの世論調査でも「憲法違反」「今国会の成立に反対」が5割から6割を占めています。日本共産党は、民意をふみにじった自民・公明の暴挙をきびしく糾弾し、廃案めざしてさらに力をつくす決意です。

「今国会で廃案に」を合言葉に、みんなで力を合わせ、安倍政権の暴走をやめさせましょう。

(右のグラフは「共同」世論調査6月20日、21日実施)



写真は報告集会で挨拶する私。

ガス水所管工事談合裁判の第1回公判報告集会開催

上越市ガス水道局所管の本支管工事における談合疑惑を解明する裁判の第1回公判が先月25日、新潟地裁で行われました。この報告集会を11日、上越市の市民プラザで行いました。

私が原告団長として挨拶し、平良木市議がこれまでの経過報告をした後、齋藤裕弁護士と鷺澤原告団副団長が裁判報告を行い、参加者と意見交換をしました。このなかで齋藤弁護士は、先月25日に

市側の弁護士が提出してきた答弁書について触れながら、「(相手方は)談合がなかったとははっきり言っていない」「談合の証拠については一部であっても言えることはすごいことだ」「談合を告発した業者をなぜ損害賠償請求の対象にしないのか」ということも書かれていたが、独禁法でも告発した業者が課徴金を免除してもらえない規定がある。告発業者まで対象にしたんでは談合はなくならない」「証拠があるので、裁判は早ければ1年半くらいで終わる可能性もある」などのべました。



【ハマゴウ】ハマゴウ族の常緑小低木で、海辺の砂浜などにあります。漢字で「浜栲」と書きます。長い間、草だと思っていたのですが、木だと知ってびっくり。紫色の花がきれいです。柿崎区上下浜にて7月中旬撮影しました。

大島画廊で3回目の絵画展開催

11日、吉川区在住の渡辺幸雄さんの油絵個展を観てきました。

作品では、妙高、米山、尾神岳とその周辺の棚田風景など日頃見る風景が描かれていて、とても身近に感じました。「一つの橋であっても落とせないんだよね。そこに住んでいる人にとっては大事な場所であったり、思い出の場所だったりするから」などと渡辺さんから一つひとつの作品を紹介してもらいました。



(絵は案内はがきから)

はしづめ法一の活動レポート

No.1716 2015.7.19
 発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三六四回 衝撃のコメント

六月下旬のことです。最初は太ったカエルがいるなど思ってカメラを向けました。カエルは緑色をしたアマガエルです。わが家の近くにある笹の葉の上にいました。腹はふくらんでいたようで、食べ過ぎてべたりと座り込んでしまっているように見えました。動かないでいるアマガエルを私はパチリとやりました。この写真はすぐにパソコンに取り込んで、インターネットで「食べ過ぎるとこういうことになる。他人事、いやカエルごとではない」とのコメントを付けて発信しました。座り込んだアマガエルを面白おかしく紹介したつもりでした。

異変に気付いたのはしばらく経ってからです。パソコン上の画像をよく見ると、アマガエルの目がトロンとしていました。食べ過ぎて眠くなっているか、お酒を飲んで酔っ払っている感じでした。そして、喉のところに細長い虫がぶら下がっていたのです。

なんかおかしいなと思った私は、再び、そのアマガエルがいたところへと行きました。カエルがその虫を飲みこもうとしているのかどうかを確認したかったからです。飲み込む姿にしては虫の位置がカエルの口よりも少し下の方にあるように見えるのが気になっていました。

アマガカエルは私が見かけた最初の場所から動いていませんでした。同じ場所で、同じ格好をしてそのままだったのです。喉のところには虫は飲みこまれていたのではなく、逆にカエルの喉元にかみついていたのでした。私は右手の人差し指を使ってかみついていた虫をパチンとはじき飛ばし、写真を撮ろうとしました。ところが、カエルはそっぽを向いてしまったのです。

虫をどかした側から言う「助けてやった」つもりだったのですが、アマガエルにとっては突然の出来事で何が起きたのかもわからなかったのかも知れません。それよりも、カメラが再び近づいてきたので怖かったのでしょう。同じ笹の葉の上にはアマガエルがこの他にも二匹いたのですが、それらも同じようにそっぽを向きませんでしたからね。この日のアマガエルとの出来事は、日付が変わる頃になって、思いがけない展開をします。私の発信やコメントを次々と寄せてくださった人たちの考えを読んだ上越科学館の永井館長さんが、「ゲンゴロウかガムシの幼虫かと。消化液を注入して食べてしまおう、肉食系です」とのコメントを寄せてくださったのです。

「消化液を注入して食べてしまおう」という永井さんのコメントは衝撃的でした。アマガエルが何かを食べ過ぎて、座り込んでいる。そんなのんびりしたことではなく、ゲンゴロウによってアマガエルの命が奪われるかどうかの緊急事態だったのですから。ゲンゴロウの幼虫が自身の体よりも大きい相手に噛みつくだけでもすごいと思ったのですが、まさか消化液を注入して相手を食べてしまうとは……。私は「ゲンゴロウ」の幼虫について、もっと知りたいと思いました。

ネットで調べてみると、「(幼虫の)大顎(おおあご)は注射針状になっており、獲物に食いつくと獲物を麻痺させる毒と消化液を同時に体内に注入し、体液と、消化されて液化化した筋肉や内臓などの組織を毒と消化液の注入に使われた大顎内の管から吸収し、口の入り口の毛で固形物をろ過して除き、消化管に飲み込む」とありました。カエルにかみついたとき、毒と消化液まで使った相手を食べようとするゲンゴロウの幼虫の姿を見たのはもちろん初めてでした。私の身近なところで起きた二つの生き物のたたかいは見て、小さな生き物の世界にたいする私の好奇心は一段と強くなりました。

妙高市議選支援に

妙高市議選は12日に告示されました。今回の選挙で日本共産党は複数議席の回復を目指していますが、私は霜鳥栄之候補の出陣式に出席し、日本共産党を代表して激励の挨拶をしてきました。

その中で、いま国会では衆院特別委員会では戦争法案が強行採決される可能性があり、平和憲法を守っていくためには絶対に負けれないこと、霜鳥の議席は市民の暮らし、とりわけ中山間地域の暮らしを守る上で欠かせない議席となることを強調して支援を訴えました。

霜鳥候補は、「戦後70年、日本は二度と戦争はしないということでやってきた。少子高齢化が進み、若者がふるさとから離れていっているが、若者が戦争に行くようになったらこの日本はどうなるのか。ここが国の政治の分かれ道、妙高市の分かれ道となる」と訴えていました。



でした。チームワークが試されるおもしろい競争となりました。今回から体育祭の運営には子どもたちの声が反映されるようになったとのこと、いいことだと思います。私は綱引きが終わった時点でふたたび妙高市へ戻りました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月8日(水)	7月15日(水)
上越南消防署	0.047	0.043
上越北消防署	0.057	0.040
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.047	0.043
頸南消防署	0.057	0.057
東頸消防署	0.043	0.053
高士分遣所	0.053	0.050
名立分遣所	0.053	0.050

吉川区では体育祭

出陣式が終わってからいったん吉川に戻りました。吉川区体育祭に出て、写真を撮りたかったからです。

私が着いた時は、今回初めて取り入れた新種目、「5人6脚リレー」(写真右)が始まるころ

